



## 電車が生まれ、線路を走る

年中 きりん組



今、きりん組では、部屋中に線路が広がっています。1学期から電車の遊びを楽しんでいた子どもたち。たか2組の「てっぱく（鉄道博物館）」に招待してもらい、遊びにいったことから、クラスでも「作りたい！」と、電車作りが再び始まりました。

年長さんと同じようにビニールテープを使って電車を作っていくと、「はやぶさ」「こまち」「かがやき」「西武線」「リニアモーターカー」など、自分の好きな電車をイメージして色や貼り方を工夫したりしています。また、カラフルなオリジナルの電車を作っている人たちもいて、たくさん電車が並んでいます。電車が出来上がると、「線路をつなげよう！」と、1学期から使っているダンボールの線路を自分たちでどんどんつなげて、走らせ始めました。

線路を走らせていると、思いついたものをいろいろ作り足したくなり、駅やトンネル、踏み切りなどが増えていきます。「橋、作りたい！」と、年長さんが作っていた鉄橋を思い出したTちゃん。KちゃんとMちゃんも加わり、3人でたか2組の鉄橋を見せてもらい、作り始めました。鉄橋の両サイドの部分は「三角なんだよ」とダンボールに三角の切り込みを入れたり、「高いところにあるから」と線路から橋までの坂道を作ったり、3人で「こうじゃない？」と考えながら組み立てたりしていました。実際に電車を走らせてみると、鉄橋を通して奥から電車が見えてきたり、鉄橋の上の線路を2本にしたりしたことで、仲間の電車とすれ違ったりするのが面白いようです。

仲間の盛り上がりにつられて、新たな電車が続々と増え、最初に作った車両基地には置ききれなくなってきました。そこで車両基地の整備と拡大に乗り出したのは、HちゃんとSちゃん。2階部分を増やして、電車を置けるスペースを広げると、それぞれの電車が車両基地から出られるように、テープで線路を敷いていきます。「やりたい！」と線路職人が増えていき、「ここやるから、そっちやって」「2階にも線路ない！」「リニアの磁石もつけないとね～」と、集まった仲間ですりとりしながら、新たな車両基地ができていきました。

子どもたちの興味や知識、発想で電車の遊びがどんどん面白くなっています。今後はどうなっていくでしょうか。これからの変化も楽しみです。(教諭・大塚美帆)



## 園だより 2021年度第7号

白梅学園大学附属  
白梅幼稚園  
2021年10月31日発行  
小平市小川町1-830



## 歯が痛い人はこちらにどうぞ

年少 たんぽぽ組



ある日のこと、保育室の真ん中で数人が集まり円陣を組んでいます。「歯医者さんごっこ、やるぞー！」「おー！」という威勢のよい声が聞こえてきました。「マスクを作ろう・・・」とつぶやいたのはAちゃん。素材コーナーから紙を見つけ口元を覆うくらい大きさにフリーハンドで切り始めました。他に、衛生士さんのイメージなのか、ままごとからエプロンと三角巾を持ってきて身につける子がいます。口の中を見る鏡つきの棒やクスリなど、歯医者さんごっこに必要なものをそれぞれ準備する姿もあります。



「準備できました～」「歯が痛い人はいませんか？」という声。「あの～、歯が痛いのですが診てもらえますか？」と言って近づくと「はい、こちらにどうぞ」と案内されたのが、大型積み木を並べて作った治療台です。「え？ここに寝るのですか？」と困惑気味で尋ねる保育者に、「はい、そうです。ここは『痛い歯医者さん』です」と真剣な顔で答えるAちゃん。周りに集まってきた子たちからはクスクスと笑う声が聞こえます。言われたとおり仰向けになって治療台に寝ると、口を大きく開ける保育者を見ようとのぞき込む子どもたちの顔がよく見えます。

「悪い歯を取り替えますね」という声が聞こえた後、横からは「今から歯を磨きます」と歯ブラシに見立てた紙の細棒を持つ子の声や、空き箱を持ちながら「薬をぬりますよ」と言う子の声も聞こえます。保育者が治療の合間に「痛いよ～」「こわいよ～」とつぶやく度、見守る子どもたちからは笑い声や「がんばれ～」と応援してくれる声が聞こえてきて、治療は無事終わりました。

子どもたちの「歯医者さんの実体験」は同じではありません。印象的だったところや記憶に残っている部分があるいろいろなだから、持ち寄ったときにおもしろい。みんなで遊ぶ楽しさはそこにあります。「そう！それぞれ！」と共感できる部分や、魅力的なものや事柄がその遊びにあることも一緒にやりたくなる理由の一つだと思います。

その後も、メンバーが替わりながら、歯医者さんごっこは続いています。

(教諭・阿部和香子)



# プレイデー 2021

今年度のプレイデーは、10月に4日間かけて実施しました。学年によって取り組みの特徴が異なります。年少組では様々な身体動作の組合せを楽しみ、年中組では自ら種目を選びめあてをたてて挑戦し、年長組では団体戦で競技に臨みました。

「子どもプレイデー」では日替わりで学年ごとに登場し、他の学年は参観と応援をします。年少さんの頑張りに刺激され、年中さんは翌日の出番に向けて準備と練習に余念がありません。年長さんは年中さんのチャレンジを見て、自分もと試しています。「プレイデー」では年中組と年長組が保護者のみなさまの応援を受けて、張り切ります。子どもたちはこの日ならではの粘り強さを見せて、力を出し尽くしました。子どもたちの真剣な挑戦に、心から拍手を送ります。

## 子どもプレイデー 10/5年少 10/6年中 10/7年長 プレイデー 10/9 年中、年長

### 年少

#### 冒険にいこう!

「忍者の修行に行こう!」「冒険に行こう!」と遊んでいた姿から、子どもたちと冒険の道を作って遊んできました。道を作ることを楽しみにしている子、渡ることを楽しみにしている子、ベンチなどの重いものを仲間とわっせわっせと運ぶ子どもなど楽しみ方は子どもそれぞれです。遊びながら「冒険の道に、お花畑もほしいな」「橋を渡ったら、トルロがいるのはどう?」「お魚がいる池も作りたい」「凸凹道もほしいな」「狭くて暗い道もほしい」などの声が出てきて、子どもたちと一緒に必要なものを作り、日々試して遊んでいました。広場から出ると、4つの分かれ道があります。どれかを進むと一本道があったり、トンネルがあったり、よじ登ったり飛び降りたりする岩があったり、池があったりします。それぞれの道を通るには、子どもたちが日頃行っている身体動作(くぐる・はう・バランスをとる・投げるなど)のいくつかを必要とします。子どもが自分でコースを選び、ゴールを目指します。そして、みんながゴールすると、旗のそばに宝箱が!! わっせわっせと宝箱をクラスまで運び、なかを開けると、なんと!! 金メダルが、入っていました。大喜びの子どもたちでした。子どもたちは仲間と一緒に身体を動かすことを楽しみ、自分たちで道具を出したり片づけたりしていました。



### 年中

#### I部 探検に行こう!

学年全体で「走って」「跳んで」「回って」、探検というイメージをもち、仲間と一緒に動きました。年中になり、2人組になって、仲間と息を合わせて動けるようにもなりました。

#### II部 挑戦しよう!

多くの人に見守られ、緊張しつつも「成功させたい」という意気込みで粘り強く挑戦しました。

##### ●ぶら下がりチャレンジ

鉄棒やロープで遊ぶ姿が増え、自分で身体を支えています。棒にしっかりと掴まり、体は脱力して、自分の身体をコントロールして、自分の力で支えられるようになりました。当日も堂々とぶら下がっていました。

##### ●板ぽっくり

バランスが難しく、初めは誰もが乗るのに苦戦しました。ひもを置いて乗ったり、ぽっくりを揃えてから乗ったり、ベンチに座りながら乗ったりと、それぞれに乗り方を考え、コツをつかんでいきました。



##### ●大縄

跳ぶリズムを掴むところから始まり、連日の練習で徐々に跳べるようになりました。引っかからず何回跳べるか、回っている縄に外から入り込んで跳べるか、二本の縄で跳べるか、など高度な跳び方に挑戦していきました。サッカーと大縄を組み合わせた「縄跳びサッカー」では、回る縄を超えてボールをゴールさせるのが難しく、入るようになるまで練習しました。



### 年長

#### クラス対抗戦から学ぶ

クラス対抗で玉入れとリレーに挑みました。クラスで作戦をたて、仲間と知恵を出し合い取り組みました。玉入れはしばしば結果が拮抗し、同点引き分けが続いたこともありました。リレーは走る順番や走り方、バトンの受け渡し方など綿密に作戦をたて、練習を繰り返しました。勝てば全身で喜び、負ければ落胆します。負けた悔しさから、相手クラスに再度、挑戦をしにいきました。時には自分たちの主張が通らないこともあります。どうしたらもう一度リレーができるのか、考えました。仲間と一緒に走る、仲間と協力するというのとはどういうことか、子ども同士話し合ったり、意見を出し合ったりして、これまで気付かなかった見方や考えを発見しました。その過程で、仲間やライバルの気持ちに寄り添って、何が最善なのか、考えを深めていきました。

